

菌根性きのこ（ホンシメジ・ハナイグチ）の林地での増殖技術

- ホンシメジの林内栽培に成功しました
- ハナイグチの林地増殖技術を大規模試験地において実証しました
- ホンシメジ・ハナイグチの林地増殖技術の普及を進めています

概要

菌根性きのこ（菌根菌）は、生きた樹木の根と養分のやりとり（共生）をしながらきのこを発生させます。そのためシイタケなどの木材腐朽菌とは違い、人工栽培は困難とされてきました。しかし近年、この菌根性きのこの仲間であり「香りマツタケ、味シメジ」と呼ばれる大変美味しいホンシメジの林地栽培技術が開発されました。また、カラマツ林に発生する菌根性きのこのハナイグチ（写真-1）の林地増殖技術の実証試験を行いました。



写真-1 ハナイグチ

内容

【ホンシメジ】ホンシメジ菌を培養した菌床を、伊那市のコナラ林に埋設したところ、1年半後にホンシメジが発生しました（写真-2）。この栽培方法は比較的簡易であり、現在県内各地において林研グループなどの研修会を通じ、菌床埋設方法の普及を行っています。

【ハナイグチ】佐久市のカラマツ林約1haにおいて森林施業（除伐、落ち葉等の腐食層の除去、ハナイグチの孢子散布）を行い、ハナイグチの発生量を調査した結果、森林施業を行った試験区は無施業区に対して有意に発生量が増加することが分かりました。現在、県内各地で普及のための現地適応化試験を行っています（図）。



写真-2 林内に発生したホンシメジ

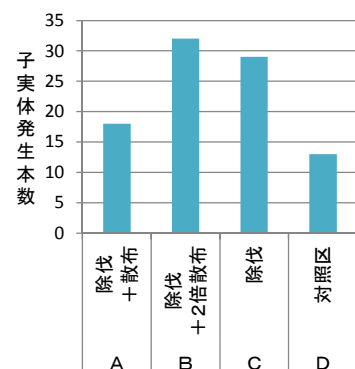


図 現地適応化調査試験地におけるハナイグチ発生状況（須坂市）
注）平成24～27年までの子実体発生量累計

詳しくは

<http://www.pref.nagano.lg.jp/ringyosogo/seika/kenkyu/documents/30-5-masuno.pdf>

<http://www.pref.nagano.lg.jp/ringyosogo/seika/gijyutsu/documents/gj150.pdf>

担当者 特産部 古川仁・片桐一弘